

令和 2 年 5 月 13 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H02039

研究課題名(和文) 不確実性と多元的価値の中での順応的な環境ガバナンスのあり方についての社会学的研究

研究課題名(英文) Sociological study on adaptive governance in uncertainty and plurality

研究代表者

宮内 泰介 (MIYAUCHI, TAISUKE)

北海道大学・文学研究院・教授

研究者番号：50222328

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 30,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、不確実性をかかえ、多元的な価値が存在する現実社会の中で、いかに環境ガバナンスの構築を実現させるか、その要件を多数の事例調査から明らかにすることを目的とした。その結果、以下のことが明らかになった。第一に、順応性と複数性、そして冗長性の重要性が明らかになった。リジッドな制度や計画によるのではなく、試行錯誤の柔軟なしくみこそが大事であり、さらに、一見無駄な余地を残した方法が求められること。第二に、具体的な人びとの「語り」が、順応的なガバナンスのあり方においては重要であること、とくにそれを学んだ学びのプロセス、さらにはそれを学んだアクションリサーチが有効であることも、明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

環境ガバナンスをどう構築するかについて、多くの関心が寄せられているところであり、本研究はそれに社会学的な視点、とくにフィールドワークに基づく現場の視点から、それに貢献しようとするものである。学術的にも、本研究は、単に構造やモデルを追求する学問でなく、実践的で順応的な学問の形を目指し、それが一定程度有効であることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study aims to clarify the requirements of how to construct environmental governance in a real world with uncertainty and plural values, from a survey of a number of cases. As a result, it was found that: First, the importance of adaptability, plurality, and redundancy became apparent. It has become clear that a flexible system of trial and error, rather than a rigid system, is important, and that a method that leaves room for seemingly uselessness is required. Secondly, it became clear that people's "narratives" are important for adaptive governance, and that the learning process using them, and the action research using them, is particularly effective.

研究分野：社会学

キーワード：順応性 冗長性 不確実性 複数性 語り アクション・リサーチ

1. 研究開始当初の背景

今日、環境問題の解決へ向けて多くの科学が動員されるようになったが、そうした科学的な知見を使えば環境の保全がうまく進むかと言えば、そうではない。環境保全の現場では、「どういう自然が望ましいのか」「具体的な解決策は何か」「誰がそれを担うのか」といった現実の問題について合意が困難なことが多く、ときにそれが対立をもたらすことさえある。

問題の解決が難しい理由の一つに、科学の不確実性の問題がある。現実の環境は複雑であり条件もさまざまである。常に不確実性をかかえた科学的な知見は、そのままですぐに政策に使えるわけではない。それを乗り越える社会的なプロセスが「合意形成」である。不確実性をもつ科学のデータをもとに、社会の構成員にとって何が最適解かを議論と合意によって決める。しかし、この合意形成モデルもいくつもの困難をかかえている。「協議会」などの合意形成の場を作ってもうまく行かない例は数多く、そこでは、誰が合意形成に加わるべきステークホルダーなのか、そもそもどうすれば「合意」したと言えるのかなど、解けない課題が高いハードルとして存在している。

環境保全の現場でいつも問題になっているこうした課題を解決するには、望ましい自然や社会の形を最初から決めてしまうリジッドな方策は到底通用しない。複雑さや変化に柔軟に対応する方策のあり方が求められている。そうした方策を明らかにするためには、幅広い現場にかかわって、ミクロからマクロまでのさまざまなレベルの「社会」の動きを記述し分析する社会学的な調査研究が必要とされる。

私たちはかねてからそうした研究を積み重ね、そこから、英語圏での議論を援用して「順応的ガバナンス (adaptive governance)」という研究・実践上のフレームワークを提起した。順応的ガバナンスとは、環境保全や自然資源管理のための社会的しくみ、制度、価値を、その地域ごと、その時代ごとに順応的に変化させながら試行錯誤していくガバナンスのしくみである。変化や複雑さへの柔軟性を備えた、プロセス重視の環境ガバナンスのしくみである。この「順応的ガバナンス」のフレームワークのもとで私たちは、理論的にも実践的にも着実に成果を出してきた。しかし、多角的な合意形成はどう可能か、中間支援はどう可能か、どのような社会評価ツールがありうるかなど、さらに追求すべきテーマも多く浮かび上がってきた。そこにさらなる研究資源を投入して組織的に取り組む必要があった。

2. 研究の目的

本研究は、不確実性をかかえ、多角的な価値が存在する現実社会の中で、いかに環境ガバナンスの構築を実現させるか、その要件を多数の事例調査から積み上げ式に明らかにすることを目的とした。具体的には、自然資源管理や野生生物管理などの多様な事例について、地域に分け入った詳細な調査を行うことによって、諸課題を抽出してモデル化し、さらにそこから、政策提言を行うことを目的とした。とくに、(i) 地域の歴史を踏まえた多角的な合意形成の方策、(ii) 順応的なプロセス・デザインの方策とその中での中間支援のあり方、(iii) 多様な主体が使える社会評価ツールと社会調査法の開発、の3つに焦点を当てた。

3. 研究の方法

本研究は、研究代表者・研究分担者が、自然資源管理、野生生物管理、獣害対策、環境保全活動、再生可能エネルギー、災害・復興、開発問題といった、環境にかかわる広範な事例を詳細に調査 (フィールドワーク) することによって、順応的ガバナンスの諸テーマについてのデータ・知見を蓄積・分析し、それを、頻繁な研究会・ワークショップでの徹底的な議論・検証によってモデル構築し、さらに広義の政策提言をしていった。

4. 研究成果

本研究では、多くの参加メンバーにより、自然資源管理、野生生物管理、獣害対策、環境保全活動、再生可能エネルギー、災害・復興、開発問題、放射能被害といった幅広い事例について、調査研究することができた。その結果、以下のようなことが明らかになった。(1) 幅広い事例には、その事象の幅広さにかかわらず、ガバナンスにかかわる多くの共通点がある。(2) まずは、順応性 (adaptability) と複数性 (plurality) の重要性があらためて明らかになった。リジッドな制度や計画によるのではなく、試行錯誤の柔軟なしくみこそが大事であり、また、単一の手法や価値に頼らない方法が求められる。(3) 冗長性 (redundancy) の重要性もまた浮かび上がってきた。合意形成や政策履行など、ガバナンスのいくつかの側面において、一見無駄な余地を残

しながら遂行していくことが、結果として有効なガバナンスになりうるということである。(4) 具体的な語り (narratives) 言い換えれば、定性的なデータが、順応的なガバナンスのあり方においては重要であること、とくにそれをういた学びのプロセス、あるいは寄り添い型の支援が重要な役割を担うこと、さらには、それを語りを用いたアクションリサーチの有効性についても、明らかになった。

以上の研究成果について、日本での経験と理論を英語で発信すべく、代表者が編者になった英語の書籍が近日中に Springer 社から発刊される予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計63件（うち査読付論文 39件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 35件）

1. 著者名 安田章人	4. 巻 22(2)
2. 論文標題 「ジビエ・ブーム」は、なにをもたらすのか？人と野生動物の関係からの一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Wildlife Forum	6. 最初と最後の頁 22-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 安田章人	4. 巻 84(6)
2. 論文標題 カモ類による農作物被害と食肉資源利用の可能性 - 福岡県糸島市を事例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 農業と経済	6. 最初と最後の頁 76-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 関礼子	4. 巻 48(3)
2. 論文標題 土地に根ざして生きる権利 津島原発訴訟と「ふるさと喪失 / 剥奪」被害ー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 環境と公害	6. 最初と最後の頁 45-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 関礼子	4. 巻 61
2. 論文標題 世代を超えた被害の社会的疫学ー新潟水俣用の事例からー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 応用社会学研究	6. 最初と最後の頁 41-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 丸山康司	4. 巻 45(10)
2. 論文標題 風力発電による環境影響と解決策	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 環境と測定技術	6. 最初と最後の頁 4-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 丸山康司	4. 巻 88(10)
2. 論文標題 再生可能エネルギーの導入と地域の合意形成 : 課題と実践	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 1010-1015
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 笹岡正俊	4. 巻 482
2. 論文標題 求められる紙原料企業の行動監視	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 グリーンパワー	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 笹岡正俊	4. 巻 156
2. 論文標題 環境ガバナンスの「進展」による民俗知の無力化 : インドネシア共和国マルク州とジャンピ州の二つの事例から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北海道大学文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 75-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14943/bgs1.156.175	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村正治	4. 巻 24
2. 論文標題 地域の自然とともに生きる社会づくりの当事者研究 都市近郊における里山ガバナンスの平成史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 環境社会学研究	6. 最初と最後の頁 38-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 富田涼都	4. 巻 68(3)
2. 論文標題 生物多様性の保全をめぐる科学技術コミュニケーションのあり方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本生態学会誌	6. 最初と最後の頁 211-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18960/sei tai .68.3_211	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岩井雪乃	4. 巻 56
2. 論文標題 アフリカゾウによる農作物被害とその対策	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アフリカレポート	6. 最初と最後の頁 93-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iwai, Yukino	4. 巻 11(53)
2. 論文標題 Human-Elephant Conflict in the Serengeti: The Side-Effects of Wildlife Tourism	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 global-e	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西城戸誠	4. 巻 714
2. 論文標題 地域再生のためのグリーン・ジョブ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	6. 最初と最後の頁 30-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西城戸誠	4. 巻 24
2. 論文標題 「規範」に接続した「実践」的な環境運動研究を考える 地域に資する再生可能エネルギーに関わる環境運動を事例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 環境社会学研究	6. 最初と最後の頁 58-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西城戸誠・原田峻	4. 巻 7
2. 論文標題 広域避難者支援における復興支援員制度の展開 - 埼玉県を事例として -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 公共政策志林	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三上直之・吉田省子・蔵田伸雄・早岡英介・永田素彦・八木絵香・植木哲也・川本思心・佐々木香織	4. 巻 15
2. 論文標題 STSにおけるアクションリサーチを考える (第15回年次研究大会における実行委員会企画ワークショップの議論から)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科学技術社会論研究	6. 最初と最後の頁 159-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kitamura, K. Nakagawa, C. Sato, T.	4. 巻 10(2)
2. 論文標題 Formation of a community of practice in the watershed scale, with integrated local environmental knowledge	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 159-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/su10020404	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅豊	4. 巻 第95号
2. 論文標題 エスノグラフィーの順応的管理	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅豊	4. 巻 第44号
2. 論文標題 フィールドワークの宿痾 公共民俗学者・宮本常一がフィールドに与えた迷惑	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会人類学年報	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅豊	4. 巻 第19巻第1期
2. 論文標題 費孝通眼中的“羊” 印刻在家畜体内的江南農業発展史	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 南京農業大学学报 (社会科学版)	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陸微微・菅豊	4. 巻 2019年第2期(総第144期)
2. 論文標題 “中国錦鯉”是如何誕生的？ 現実與虛擬空間中的“第三種文化”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 民俗研究	6. 最初と最後の頁 126-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 菊地直樹	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 コウノトリの野生復帰と市民調査：順応的プロセスの視点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 水資源・環境研究	6. 最初と最後の頁 23-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鬼頭秀一	4. 巻 168号
2. 論文標題 自然と共生する技術とは何か 有明海の再生に向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ACADEMIA	6. 最初と最後の頁 16-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鬼頭秀一	4. 巻 73巻
2. 論文標題 不確実性に耐えること 不確実性のマネジメントに向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 化学	6. 最初と最後の頁 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鬼頭秀一	4. 巻 14号
2. 論文標題 人と自然のかかわり再考-- 自然災害との共生に向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 星槎大学紀要 共生科学研究	6. 最初と最後の頁 2-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮内泰介	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 社会のレジリエンスはどこから生まれるか 順応的ガバナンスの諸要件	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 応用生態工学	6. 最初と最後の頁 143-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.3825/ece.20.143	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅豊	4. 巻 2017年第3期(総第133期)
2. 論文標題 民俗学者的田野介入與社会現実的再建構 通過田野調查構築現実	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 民俗研究	6. 最初と最後の頁 49-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅豊、張帥、那光大	4. 巻 2017年第3期(総第133期)
2. 論文標題 公共民俗学與新在野之学及日本民俗学者的中国研究	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 民俗研究	6. 最初と最後の頁 38-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yutaka Suga	4. 巻 58(1-2)
2. 論文標題 Into the Bullring: The Significance of Empathy after the Earthquake	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Fabula	6. 最初と最後の頁 25-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1515/fabula-2017-0002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅豊	4. 巻 2017年第4期(総第245期)
2. 論文標題 『超越“20世紀民俗学”：我々從與福田亜細男的討論中學習甚麻?』序言	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 民間文化論壇	6. 最初と最後の頁 25-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinji Yamamoto, Misaki Shitara	4. 巻 63(2)
2. 論文標題 Current Status of the Impact of the Fukushima Nuclear Power Plant Accident on Large-scale Shiitake Mushroom Producers and Related Tasks: Ichinoseki City, Iwate Prefecture, as a Case Example	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Forest Economics	6. 最初と最後の頁 41-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小笠原碧, 山本信次	4. 巻 22(2)
2. 論文標題 果樹生産地域における薪利用の実態と今後の利用可能性 青森県五所川原市七和地区を事例として	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東北森林科学会誌	6. 最初と最後の頁 49-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三上直之・山下博美	4. 巻 23
2. 論文標題 自然再生事業の緩慢な進捗とその意義 : 英虞湾の沿岸遊休地における干潟再生の事例	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 環境社会学研究	6. 最初と最後の頁 130-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山康司	4. 巻 41(2)
2. 論文標題 Task28 - Social Acceptance of Wind Energy Projects	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 風力エネルギー	6. 最初と最後の頁 169-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 丸山康司	4. 巻 58
2. 論文標題 再生可能エネルギーの現状と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国民生活	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原田峻・西城戸誠	4. 巻 5
2. 論文標題 東日本大震災・福島原発事故から7年目を迎えた広域避難の現状と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 立教大学コミュニティ福祉研究所紀要	6. 最初と最後の頁 51-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岩井雪乃	4. 巻 23
2. 論文標題 政治化された「野生」 地域社会はグローバル化した野生動物といかにかかわれるか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 環境社会学研究	6. 最初と最後の頁 34-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菊地直樹	4. 巻 2017年6月号
2. 論文標題 野生生物を軸にした多面的価値の創出 - コウノトリの野生復帰を事例に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 住民と自治	6. 最初と最後の頁 11-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菊地直樹・大谷竜・渡辺真人・柴田伊廣・斉藤清一	4. 巻 3
2. 論文標題 ジオパーク専門員の属性と持続可能な地域づくりに果たす多面的な活動	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ジオパークと地域資源	6. 最初と最後の頁 13-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 友淵貴之・田代優秋	4. 巻 15
2. 論文標題 多世代間での双方向コミュニケーション促進ツールの開発 居住履歴を「見える化」するワークシート	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大学教育研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田代優秋	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 なぜ、地域の資源化プロセスを扱うのか? - ご当地ブームに乗らないために	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Wildlife Forum	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西城戸誠・大國充彦	4. 巻 18(2)
2. 論文標題 北海道芦別市における主婦会活動の記録 三井芦別炭鉱主婦会・芦別生活学校の聞き書き	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人間環境論集	6. 最初と最後の頁 64(1)-30(35)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浜本篤史	4. 巻 268
2. 論文標題 中国における開発にともなう立ち退き問題と専門研究機関	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア研ワールド・トレンド	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 富田涼都	4. 巻 -
2. 論文標題 生物多様性の保全をめぐる科学技術コミュニケーションのあり方	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本生態学会誌	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 富田涼都	4. 巻 -
2. 論文標題 記憶や経験、思い入れからの<再>資源化の可能性 「人と自然のふれあい調査」から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ワイルドライフ・フォーラム	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鬼頭秀一	4. 巻 73
2. 論文標題 不確実性に耐えること-不確実性のマネジメントに向けて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 化学	6. 最初と最後の頁 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩井雪乃	4. 巻 92
2. 論文標題 奪われる住民の観光便益 タンザニア・ワイルドライフ・マネジメントエリアの裏切り	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 95-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菊地直樹	4. 巻 22
2. 論文標題 ジオパークとエコパークとの比較からみるエコミュージアムの現状と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 エコミュージアム研究	6. 最初と最後の頁 30-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮内泰介	4. 巻 17
2. 論文標題 政策形成における合意形成プロセスとしての市民調査 社会学的認識の活かし方	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 社会と調査	6. 最初と最後の頁 38-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Memi Motosu, Yasushi Maruyama	4. 巻 91
2. 論文標題 Local acceptance by people with unvoiced opinions living close to a wind farm: A case study from Japan	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Energy Policy	6. 最初と最後の頁 362-370
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.enpol.2016.01.018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富田 涼都, 福永 真弓	4. 巻 84(5)
2. 論文標題 なぜ「正しい」設計の環境配慮がうまくいかないのか?	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 水土の知 : 農業農村工学会誌 (小特集 農業土木での環境配慮はなぜだか難しい)	6. 最初と最後の頁 371-374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福永真弓	4. 巻 4・5月号
2. 論文標題 デザインの正義とは何か	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 地域開発	6. 最初と最後の頁 56-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木克哉・江成広斗・山端直人・清野紘典・宇野壮春・森光由樹・滝口正明	4. 巻 56 (2)
2. 論文標題 人とマカクザルの軋轢解消にむけた統合的アプローチを目指して	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 哺乳類科学	6. 最初と最後の頁 241-249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11238/mammalianscience.56.241	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田代優秋	4. 巻 第37号
2. 論文標題 紀伊半島における河川プールの設置状況	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 和歌山大学紀州経済史文化史研究所紀要	6. 最初と最後の頁 45-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅豊	4. 巻 2016年第6期 (総第130期)
2. 論文標題 公益與共益 從日本的“社会性” 伝統再構成看国家與民衆	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 民俗研究	6. 最初と最後の頁 49-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安田章人	4. 巻 98(3)
2. 論文標題 野生動物管理のための獺区がもつ可能性と課題 北海道・占冠村における獺区設定過程と地域社会の關係 に対する分析から	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本森林学会誌	6. 最初と最後の頁 108-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菊地直樹	4. 巻 21
2. 論文標題 エコミュージアムとジオパーク、エコパーク お互いの経験から学び合う	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 エコミュージアム研究	6. 最初と最後の頁 52-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊地直樹	4. 巻 39
2. 論文標題 保全することと利用すること コウノトリの野生復帰からシマフクロウの保全へ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 知床博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 5 - 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本信次	4. 巻 46(1)
2. 論文標題 震災後の東北地域の森林・林業・農山村のレジリエンス	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 環境情報科学	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinji Yamamoto, Mariko Hosoda and Haruna Ito	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 Changes in Local Residents' Attitudes as a Result of a Successful Bear Damage Control Program with Community Participation: A Case Study from Morioka City	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Tohoku Journal of Forest Science	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西城戸誠	4. 巻 51号
2. 論文標題 コメント:ドイツとの比較から考える日本の「若者」の政治参加と政治教育	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ドイツ研究	6. 最初と最後の頁 63-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福永真弓	4. 巻 22(2)
2. 論文標題 融合の先にあるものは何か:環境学の現在から考える	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 40-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浜本篤史	4. 巻 12号
2. 論文標題 『名古屋市におけるレジ袋有料化に関する社会調査』の集計報告	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人間文化研究所年報	6. 最初と最後の頁 64-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計100件(うち招待講演 33件/うち国際学会 42件)

1. 発表者名 Miyachi, T.
2. 発表標題 Rural Community Sustainability and the Commons: A Post-Disaster Experience
3. 学会等名 XIX ISA (International Sociological Association) World Congress 2018 Toronto (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuda, A.
2. 発表標題 Hunting and wild meat eating in Japan
3. 学会等名 World Social Science Forum 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安田章人
2. 発表標題 カメルーン北部におけるスポーツハンティング観光と地域社会の関係
3. 学会等名 海外学術調査フォーラム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関礼子
2. 発表標題 原発事故と「生の一回性」 対立を超えていく「語り」から
3. 学会等名 第91回日本社会学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西城戸誠・丸山康司
2. 発表標題 反・脱原発運動とコミュニティパワーの関係性：市民出資による再生可能エネルギー事業と生活クラブエナジーの分析から
3. 学会等名 第57回環境社会学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Maruyama, Yasushi, Makoto Nishikido and Shota Furuya
2. 発表標題 Tools for governnounce of wind energy project
3. 学会等名 Grand Renewable Energy 2018 International Conference and Exhibition (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Motosu, Memi and Yasushi Maruyama
2. 発表標題 Local acceptance of wind energy projects in a community without negative campaign
3. 学会等名 Grand Renewable Energy 2018 International Conference and Exhibition (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nishikido Makoto and Yasushi Maruyama
2. 発表標題 Energy Transition and the Development of Community Power Movements in Japan
3. 学会等名 XIX ISA (International Sociological Association) World Congress 2018 Toronto (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Maruyama, Yasushi
2. 発表標題 Energy Transition and Community Power Movements in Japan
3. 学会等名 I2CNER International Workshops (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笹岡正俊
2. 発表標題 ランドグラッピングを進める企業の社会的責任に関する試論 インドネシア南スマトラ州の植林事業地における農民の「不法占拠者化」に着目して
3. 学会等名 第11回白山人類学研究フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福永真弓・富田涼都
2. 発表標題 SDGs時代の社会デザインを考える：人文社会科学からの新たな挑戦
3. 学会等名 環境三学会合同シンポジウム（環境社会学会、環境法政策学会、環境経済・政策学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 富田涼都
2. 発表標題 環境問題をめぐる「オープンサイエンス」の実践の意義
3. 学会等名 「野生生物と社会」学会第24回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 都市型学生狩猟団体の弱みと強み
3. 学会等名 「野生生物と社会」学会第24回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三上直之
2. 発表標題 エネルギーシステムのデザイン における市民参加の役割を考える : 「討論型世論調査」の事例から
3. 学会等名 エネルギー・資源学会 オータムワークショップ2018 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三上直之
2. 発表標題 福島原発事故後のエネルギー・環境政策と市民参加
3. 学会等名 「近現代日本の社会と環境」国際シンポジウム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三上直之
2. 発表標題 志摩市の干潟再生事業と住民視点
3. 学会等名 干潟・海辺の再生とまちづくり 国際シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hamamoto, Atsushi
2. 発表標題 Social Problems Engendered By the Removal of Dams
3. 学会等名 XIX ISA (International Sociological Association) World Congress 2018 Toronto (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hamamoto, Atsushi
2. 発表標題 The Construction of Hydropower Dams and Regional Development: Experiences from 1950s and 1960s Japan
3. 学会等名 6th International Conference of the Asian Rural Sociology Association (ARSA) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hamamoto, Atsushi
2. 発表標題 How has Japan tackled the social impact of dam construction? Outcome and unintentional negative consequence
3. 学会等名 The Inaugural Congress of East Asian Sociological Association (EASA) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 現代社会中的民俗学與歴史学的一種関連性 融合的公共民俗学與公共歴史学
3. 学会等名 浙江師範大学非物質文化遺產研究基地主催国際シンポジウム『歴史民俗学與社会史：理論與方法 跨学科国際論壇』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 中国の奇なるアートと自然観
3. 学会等名 北九州市立大学アジア文化社会研究センター主催講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 公共民俗学の可能性と課題 学問の公共性が問われる時代に民俗学者はどう対応するのか？
3. 学会等名 2019年韓国実践民俗学会全国学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mayumi FUKUNAGA
2. 発表標題 Negotiating 'generativity' among human and non-human actors: Re-organizing aquaculture in social- ecological restoration of the contaminated and devastated coastal spaces in the post-war Japan
3. 学会等名 XIX ISA (International Sociological Association) World Congress 2018 Toronto (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mayumi FUKUNAGA
2. 発表標題 Resisting nostalgic developmentalism: (Re)generative commons as a new nexus for sustainability and restorative environmental justice in post-disaster Japan
3. 学会等名 XIX ISA (International Sociological Association) World Congress 2018 Toronto (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mayumi FUKUNAGA
2. 発表標題 Re-wilding Aquaculture: Negotiating and Re-imagining Seascape in Collaborative Local Knowledge Production and Action in Miyako Bay, Japan
3. 学会等名 Workshop: Living Landscapes: Time, Knowledge, and Ecology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菊地直樹
2. 発表標題 絶滅危惧種利用の順応的プロセスデザイン
3. 学会等名 第66回日本生態学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菊地直樹
2. 発表標題 持ちつ持たれつの順応的プロセス：コウノトリとシマフクロウからの示唆
3. 学会等名 鳥学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菊地直樹
2. 発表標題 環境活動の見える化ツール：エコミュージアム活動のコミュニケーション促進に向けて
3. 学会等名 日本エコミュージアム研究会2018研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鬼頭秀一
2. 発表標題 当事者研究の意義と課題
3. 学会等名 日本共生科学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鬼頭秀一
2. 発表標題 いま改めて、共生の在り方を考えるー3.11以後の環境問題と環境正義
3. 学会等名 日本共生科学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鬼頭秀一
2. 発表標題 自然と共生する技術とは何かー有明海の再生に向けて
3. 学会等名 地球システム・倫理学会・全日本学士会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Taisuke Miyauchi
2. 発表標題 Post-disaster co-management of natural resources: A case study from Kitakami area, Miyagi, Japan
3. 学会等名 6th International Symposium on Environmental Sociology in East Asia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 東亜文化共同体中の非物質文化遺産相關問題
3. 学会等名 北京聯合大学北京学研究基地・One Asia Foundation主催『北京学講堂：亜州文化共同体與首都比較』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 無形文化資産保存維護與公共民俗学 「共学」立場與方法之必要性
3. 学会等名 台湾文化部文化資産局主催 『2017垂太無形文化資産論壇 前瞻教育與当代实践 』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 鳥食を忘れた日本人 江戸の食文化を中心に
3. 学会等名 全国科学博物館協議会主催記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 農耕文化遺産與現代民俗学 以全球重要農業遺産の申請活動為例
3. 学会等名 南京農業大学、南京市文学芸術界聯合会主催国際シンポジウム 『第二届“農耕文化遺産與現代社会”學術検討会』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 パブリック・ヒストリーと歴史实践 反復される多様な歴史活用とその現代的展開
3. 学会等名 日本民俗学会第69回年会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 拒絶UNESCO ICH? 普遍性価値和地域性価値的相互矛盾
3. 学会等名 中国民俗学会、中山大学非物質文化遺産研究中心・中文系主催国際シンポジウム『非物質文化遺産保護倫理問題国際検討会』(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田代優秋・松田春菜
2. 発表標題 自然環境はどのように「資源」になるのか?
3. 学会等名 第23回「野生生物と社会」学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松田春菜・田代優秋
2. 発表標題 新種カタツムリの活用事例からみた生物の資源化プロセス
3. 学会等名 第23回「野生生物と社会」学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Naoyuki Mikami and Hiromi Yamashita
2. 発表標題 Factors underlying Differing Attitudes toward Tidal Flat Restoration Projects in Unused Farmland in Ago Bay: A Survey of Shima City Residents
3. 学会等名 6th International Symposium on Environmental Sociology in East Asia(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安田章人
2. 発表標題 スポーツハンティングの『公共化』と『私有』：カメルーンと南アフリカ共和国の事例
3. 学会等名 第23回「野生生物と社会」学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 安田章人
2. 発表標題 南アフリカ共和国におけるスポーツハンティング
3. 学会等名 日本アフリカ学会第54回学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 丸山康司
2. 発表標題 持続可能性 (sustainability) と環境社会学
3. 学会等名 第55回環境社会学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Maruyama, Yasushi
2. 発表標題 Citizens' Preference for Green Electricity: A Case Study of Consumer Cooperation in Japan
3. 学会等名 6th International Symposium on Environmental Sociology in East Asia (ISESEA) 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西城戸誠
2. 発表標題 地域再生のためのグリーンジョブ
3. 学会等名 第30回国際労働問題シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Makoto Nishikido;Yasushi Maruyama
2. 発表標題 The trend of “Community Power Movements” after Fukushima nuclear disaster
3. 学会等名 6th International Symposium on Environmental Sociology in East Asia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yasushi Maruyama;Makoto Nishikido;Tae Nakane
2. 発表標題 Citizens’ Preference for Green Electricity: A Case Study of Consumer Cooperative in Japan
3. 学会等名 6th International Symposium on Environmental Sociology in East Asia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西城戸誠
2. 発表標題 「規範」と「実践」に接続する環境運動研究の可能性を探る
3. 学会等名 第56回環境社会学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浜本篤史
2. 発表標題 “工程長期化”与移民心理影响：基于日本德山水庫の实例研究
3. 学会等名 移民社会学会第1回大会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浜本篤史
2. 発表標題 三峡ダム建設に伴う住民移転をめぐる現状と課題
3. 学会等名 第38回中国環境問題研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浜本篤史
2. 発表標題 Reducing plastic bags in Japan (2) : Voluntary agreement and its shift change
3. 学会等名 The 6th International Symposium on Environmental Sociology in East Asia (ISESEA-6)（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 富田涼都
2. 発表標題 環境保全の再文脈化という「介入」の可能性と課題
3. 学会等名 環境社会学会第55回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 富田涼都
2. 発表標題 資源化のツールとしての「人と自然のふれあい調査」
3. 学会等名 第23回「野生生物と社会」学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松村正治
2. 発表標題 私にとって大事な環境を私たちの手に取り戻す運動論：日本の環境社会学における人と自然の関係論を手がかりとして
3. 学会等名 第56回環境社会学学会大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yukino Iwai
2. 発表標題 Continuous Land Loss: Wildlife Management Area in Tanzania as Green Grab
3. 学会等名 France-Japan Area Studies Forum: Voices for The Future: African Area Studies in a Globalizing World (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 アフリカゾウ追い払いにおける官民連携と駆け引き：タンザニアの事例
3. 学会等名 第23回「野生生物と社会」学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木克哉
2. 発表標題 現場と科学、応用と基礎を結び付ける新しい役割の可能性
3. 学会等名 日本哺乳類学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木克哉・清野未恵子
2. 発表標題 篠山市の事例：先進技術を活用した集落主体型捕獲の推進体制を考える
3. 学会等名 第23回「野生生物と社会」学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福永真弓
2. 発表標題 記述とデザインの倫理と「分有」：「よりせい」の方法論が拓く可能性と環境社会学
3. 学会等名 環境社会学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mayumi Fukunaga
2. 発表標題 Toward environmental restorative justice: Community dialogues on resilience and 'Inochi' ('Life') in pre- and post-Fukushima Japan
3. 学会等名 Post-Fukushima Debate over Nuclear Power and Sustainable Development in East Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福永真弓
2. 発表標題 ヤマ・カワ・ウミのつながりから始める：須賀の記憶から考える「沿岸」の未来
3. 学会等名 総合地球環境研究所「震災とレジリエンス」シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菊地直樹
2. 発表標題 生物文化多様性のフレームワークによる野生生物管理と自然環境保全策（コメント）
3. 学会等名 第23回「野生生物と社会」学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 水谷瑞希・菊地直樹
2. 発表標題 「コウノトリ」は里山保全を促進するか：市民意識調査からの検討
3. 学会等名 第65回日本生態学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丸山康司
2. 発表標題 再生可能エネルギー導入におけるゾーニングの意義
3. 学会等名 再生可能エネルギーセミナー
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丸山康司
2. 発表標題 Task28：風力発電プロジェクトの社会受容性
3. 学会等名 第6回 IEA Wind セミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浜本篤史
2. 発表標題 「人生時間の収奪」という見過ごされた問題：中国のダム水没移転と比較して
3. 学会等名 愛知大学経済学会セミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浜本篤史
2. 発表標題 ダムとテレビーNHK番組に映し出された開発イメージの変遷
3. 学会等名 アジアの開発とダム映像に関する日韓共同セミナー（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮内泰介
2. 発表標題 なぜ私たちは半栽培を考えなければならないのか：半栽培概念とその先
3. 学会等名 環境社会学会2016年大会シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 宮内泰介
2. 発表標題 社会のレジリエンスはどこから生まれるか：順応的ガバナンスの諸要件
3. 学会等名 応用生態工学会第20回大会公開シンポジウム報告（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yasushi Maruyama, Makoto Nishikido, Shota Furuya, Tae Nakane
2. 発表標題 Pro-Active Social Movement in Uncertain Social Issue of Sustainability: A Case Study of Citizen Cooperative in Japan
3. 学会等名 3rd ISA Forum of SOCIOLOGY (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yasushi Maruyama
2. 発表標題 External benefit of Renewable Energy Projects: As a Tool to Boost Social Acceptance in Japan
3. 学会等名 3rd European Energy & Society Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yasushi Maruyama
2. 発表標題 Ordinance for Local Governance of Wind Energy Projects: Case Study in Japan
3. 学会等名 The 15th World Wind Energy Conference and Exhibition WWFC 2016 TOKYO (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yasushi Maruyama
2. 発表標題 External Regional Benefit of Renewable Energy Project
3. 学会等名 Deutsch-Japanisches Symposium zu Klimaschutz und regionaler Entwicklung (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 丸山康司
2. 発表標題 日本の自然エネルギーと社会的応答
3. 学会等名 自然エネルギーと社会的合意 国際ワークショップ2016 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菊地直樹
2. 発表標題 重層的な価値があるものに対する自然保護の取り組み事例
3. 学会等名 日本ジオパーク全国大会 第7回伊豆半島大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菊地直樹
2. 発表標題 エコミュージアム、ジオパーク、エコパーク、世界遺産
3. 学会等名 日本エコミュージアム研究会 2016研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Naoyuki Mikami
2. 発表標題 Lessons for More Responsible Public Participation
3. 学会等名 2016 Annual Meeting of Society for Social Studies of Science (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 三上直之・成元哲
2. 発表標題 「参加型リサーチ」の限界とその克服の可能性 福島県中通りの親子を対象としたある社会調査の事例から
3. 学会等名 科学技術社会論学会第15回年次研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Naoyuki Mikami
2. 発表標題 Public Participation Practices in an Age of Food Safety and Security Crisis in Hokkaido
3. 学会等名 The 12th East Asian Science Technology and Society Network Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 三上直之・山下博美
2. 発表標題 英虞湾の沿岸遊休地での干潟再生事業をめぐる住民の認識
3. 学会等名 第54回環境社会学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tomita Ryoto
2. 発表標題 The Sakura Shrimp (<i>Sergia lucens</i>) Fishery struggling with Pollution: Management of Place in Suruga Bay, Japan
3. 学会等名 22nd International Symposium on Society and Resource Management (ISSRM) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 富田涼都
2. 発表標題 「人と自然のふれあい調査」による環境保全が地域に根差すポテンシャル
3. 学会等名 第22回「野生生物と社会」学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Mayumi FUKUNAGA
2. 発表標題 Of the Placed and the Displaced: Fishing Communities, the State, and Territoriality in Local Watershed management
3. 学会等名 22nd International Symposium on Society and Resource Management (ISSRM) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 福永真弓
2. 発表標題 融合の先にあるものとは何か：環境学と百年の計
3. 学会等名 日本学術会議公開シンポジウム『融合を問う：学問の消滅と生成の系譜学から』
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 福永真弓
2. 発表標題 浮遊するサケと環境統治性：戦後養殖技術の展開と環境ガバナンス
3. 学会等名 2016年日本地理学会秋季学術大会 シンポジウム『社会生態系の複合性の分析と持続可能な資源のあり方』
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 福永真弓
2. 発表標題 須賀の記憶から考える流域と沿岸のポテンシャル：多機能型の水産資源管理を目指して
3. 学会等名 宮古地域水産シンポジウム：水産業の未来に向けて（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 福永真弓
2. 発表標題 地域環境史から百年の計を考える：絵解き地図という手法
3. 学会等名 第3回国公私3大学環境フォーラム社会環境シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 鈴木克哉
2. 発表標題 篠山市における獣害管理と地域再生の両立的な支援を目指したガバナンス
3. 学会等名 第22回「野生生物と社会」学会大会 TS「地域に根ざした新たな野生動物管理体制のあり方について」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 鈴木克哉
2. 発表標題 地域を主体とした獣害対策の今後の展望
3. 学会等名 第22回「野生生物と社会」学会 TS「地域主体の獣害対策のこれからの方向性を考える」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 浜本篤史
2. 発表標題 受益圏・受苦圏の政策論的応用 戦後日本のダム事業を中心として
3. 学会等名 第89回日本社会学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 岩井雪乃・丸山淳子
2. 発表標題 アフリカの少数民族による文化／自然の観光資源化と『住民参加』の新展開
3. 学会等名 日本アフリカ学会第53回学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 岩井雪乃
2. 発表標題 グローバル化時代の人と野生動物のかかわり
3. 学会等名 第54回環境社会学会大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 伝統村落保護の可能性與課題 生活文化主義的提起
3. 学会等名 中国伝統村落保護（鳴鶴）国際高峰论坛（International Summit Forum on Chinese Traditional Village Protection（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菅豊
2. 発表標題 宮本常一が予期しなかったこと 文化政策、民俗学者の介入、そして順応的管理
3. 学会等名 2016年度現代民俗学会年次大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yutaka Suga
2. 発表標題 Quiet Violence: Urban rivers, hidden walls, and vulnerable populations in Japanese society
3. 学会等名 International Symposium Meeting, "Perspectives and Positions of Cultural and Folklore Studies in Japan and Germany"（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 安田章人
2. 発表標題 アフリカにおけるスポーツハンティングと地域社会の『持続可能性』
3. 学会等名 第22回「野生生物と社会」学会大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 安田章人
2. 発表標題 野生動物管理のための猟区がもつ可能性と課題 北海道・占冠村における猟区設定過程と地域社会の関係に対する分析から -
3. 学会等名 環境社会学会第53回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 浅野敏久・菊地直樹・清水則雄
2. 発表標題 包括的地域再生の社会的評価手法検討のためのワークショップ 東広島市豊栄町におけるオオサンショウウオ保護活動を事例として
3. 学会等名 2017年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hamamoto Atsushi
2. 発表標題 Mental Anguish and Plundering of Lives: The Adverse Impact of Dam-induced Displacement in Japan
3. 学会等名 The 77th Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計37件

1. 著者名 Miyuchi, Taisuke	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 430(159-168)
3. 書名 Transformations of Social-Ecological Systems: Studies in Co-creating Integrated Knowledge Toward Sustainable Futures (Sato, T., Chabay, I., Helgeson, J. eds., "Adaptive Process Management: Dynamic Actions Toward Sustainable Societies" を分担執筆)	

1. 著者名 笹岡正俊	4. 発行年 2019年
2. 出版社 共立出版	5. 総ページ数 297(76-106)
3. 書名 森林科学シリーズ12巻 森林と文化 森とともに生きる民俗知のゆくえ (蛭原一平・斉藤暖生・生方史数編著,「熱帯林ガバナンスの「進展」と民俗知」を分担執筆)	

1. 著者名 松村正治	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 184(91-127)
3. 書名 自衛隊配備問題から考える島の未来の選び方 地政学的思考よりも深い島人の経験的世界をもとに (関礼子・高木恒一編,「多層性とダイナミズム 沖縄・石垣社会の社会学」を分担執筆)	

1. 著者名 西城戸誠・原田峻(共著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新泉社	5. 総ページ数 288
3. 書名 避難と支援 - 埼玉県における広域避難差支援のローカルガバナンス	

1. 著者名 菅豊	4. 発行年 2018年
2. 出版社 商務印書館	5. 総ページ数 1021(333-352)
3. 書名 現代民俗学の視野與方向 民俗主義・本真性・公共民俗学・日常生活 (周星・王雷冰編,「日本現代民俗学的“第三条路” 文化保護政策、民俗主義及公共民俗学」を分担執筆)	

1. 著者名 菅豊	4. 発行年 2018年
2. 出版社 商務印書館	5. 総ページ数 1021(810-847)
3. 書名 現代民俗学的視野與方向 民俗主義・本真性・公共民俗学・日常生活 (周星・王霄冰編, 「公共民俗学的可能性」を分担執筆)	

1. 著者名 Suga, Yutaka.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Waxmann Verlag GmbH.	5. 総ページ数 416(99-118)
3. 書名 Themen und Tendenzen der deutschen und japanischen Volkskunde im Austausch. (Johannes Moser編, "Stille Gewalt Staedte, Fluesse, unsichtbare Mauer und sozial Schwache in der japanischen Gesellschaft." を分担執筆)	

1. 著者名 菅豊	4. 発行年 2018年
2. 出版社 清文堂	5. 総ページ数 240(83-116)
3. 書名 文化接触のコンテキストとコンフリクト 環境・生活圏・都市 (大場茂明・大黒俊二・草生久嗣編, 「見えない『戦闘地帯(Kampfzone)』 都市の社会的弱者の静かなる排除」を分担執筆)	

1. 著者名 菊地直樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 公人の友社	5. 総ページ数 128(88-100, 118-122)
3. 書名 グリーンインフラによる都市景観の創造：金沢からの「問い」 (上野裕介共編, 「グリーンインフラの順応的ガバナンスに向けて」「おわりに」を分担執筆)	

1. 著者名 Kikuchi. N	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 430(97-117)
3. 書名 Transformations of Social-Ecological Systems: Studies in Co-creating Integrated Knowledge Toward Sustainable Futures (Sato, T., Chabay, I., Helgeson, J. eds., "Co-creation of Local Values:Reintroduction of Oriental White Storks into the Wild" を分担執筆)	

1. 著者名 菅豊	4. 発行年 2017年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 398(68-96)
3. 書名 『文化遺産と生きる』（飯田卓編, 「幻影化する無形文化遺産」を分担執筆）	

1. 著者名 Masatoshi Sasaoka	4. 発行年 2017年
2. 出版社 INTECH	5. 総ページ数 196(77-104)
3. 書名 Indigenous Resource Management Practices and the Local Social-Cultural Context: An Insight towards Self-Directed Resource Management by People who 'Coexist' with Supernatural Agents, in Purushothaman Venkatesan(ed.), Indigenous People	

1. 著者名 安田章人	4. 発行年 2017年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 185(27-40)
3. 書名 『100万人のフィールドワーカーシリーズ6巻 マスメディアとフィールドワーカー』, (椎野若菜・福井幸太郎編, 「フィールドワーカーが見た『捕鯨の町・和田』と捕鯨論争」を分担執筆)	

1. 著者名 岩井雪乃	4. 発行年 2017年
2. 出版社 合同出版	5. 総ページ数 136
3. 書名 『ぼくの村がゾウに襲われるわけ。 - 野生動物と共存するってどんなこと?』	

1. 著者名 菊地直樹	4. 発行年 2017年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 228(60-61)
3. 書名 『図説 日本の湿地』（日本湿地学会監修，「シンボルの鳥 - コウノトリ、トキ、タンチョウ」を分担執筆）	

1. 著者名 Kikuchi.N and Mokudai.K	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 183(95-101)
3. 書名 Sanin-Kaigan UNESCO GLOBAL Geopark:Geology and Conservation of the Oriental White Stork ,In:Abhik Chakraborty et al(ed),Natural Heritage of Japan:Geomorphological,and Ecological Aspects	

1. 著者名 宮内泰介	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 430(157-169)
3. 書名 『地域環境学 - トランスディシプリナリー・サイエンスへの挑戦』（佐藤哲・菊地直樹編，「順応的なプロセス管理 - 持続可能な地域社会への取り組み」 を分担執筆）	

1. 著者名 佐野直子・浜本篤史	4. 発行年 2018年
2. 出版社 名古屋市立大学佐野直子研究室	5. 総ページ数 60(1-36)
3. 書名 『聞き書きで地域をつくる～聞く人がいて、話す人がいる～』	

1. 著者名 鬼頭秀一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 120(51-53)
3. 書名 『3.11を心に刻んで 2018』（岩波書店編集部編, 「「不確実性」を受け入れそれをうまくマネジメントするために」を分担執筆）	

1. 著者名 松村正治	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 184(91-127)
3. 書名 『自衛隊配備問題から考える島の未来の選び方 地政学的思考よりも深い島人の経験的世界をもとに』（関礼子・高木恒一編, 「多様性とダイナミズム 沖縄・石垣社会の社会学」を分担執筆）	

1. 著者名 福永真弓	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 378
3. 書名 『サケをつくる人びと：刻印と境界の魚の近代』	

1. 著者名 福永真弓	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 312
3. 書名 『未来の環境倫理学』（福永真弓・吉永明弘編，「リスク社会における環境倫理学」，「環境正義がつなぐ未来：明日へ継ぐに足る社会にするために」，「人新世」時代の環境倫理学」を分担執筆）	

1. 著者名 福永真弓	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東海大学出版会	5. 総ページ数 320
3. 書名 『やま・かわ・うみの知をつなぐ：東北における在来知と環境教育の現在』（羽生淳子，佐々木剛，福永真弓編，「在来知ネットワークからとらえる未来」，「須賀の絵解き地図を描く：風景の「上書き」を超えて」を分担執筆）	

1. 著者名 福永真弓	4. 発行年 2018年
2. 出版社 総合地球環境研究所ブックレット	5. 総ページ数 印刷中
3. 書名 『人新世時代の在来知ネットワークと地域再生』（窪田順平編，「震災復興とレジリエンス」を分担執筆）	

1. 著者名 菊地直樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 416(99-116)
3. 書名 『地域環境学—トランスディシプリナリー・サイエンスへの挑戦』（佐藤哲・菊地直樹編，「野生復帰が可視化した地域の価値」を分担執筆）	

1. 著者名 関礼子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 185(3-15, 68-98, 146-161)
3. 書名 『被災と避難の社会学』（関礼子編、「災害をめぐる『時間』」, 「原を発事故めぐる”復興”と”再生”の時間」, 「故郷喪失から故郷剥奪の被害論へ」を分担執筆	

1. 著者名 関礼子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 新泉社	5. 総ページ数 248 (208-219)
3. 書名 『阿賀の記憶、阿賀からの語り 語り部たちの新漏水俣病』（関礼子ゼミナル編, 「被害の社会的承認と修復的ポリティクスとしての『対話』」を分担執筆）	

1. 著者名 菊地直樹	4. 発行年 2016年
2. 出版社 地人書館	5. 総ページ数 320 (207-226)
3. 書名 『野生動物の餌付け問題 - 善意が引き起こす? 生態系攪乱・鳥獣害・感染症・生活被害』（畠山武道監修, 「給餌と「野生」のあいまいな関係 - コウノトリの野生復帰の現場から考える給餌を位置付ける見取り図」を分担執筆）	

1. 著者名 松村正治	4. 発行年 2016年
2. 出版社 日本NPOセンター	5. 総ページ数 64 (16-17)
3. 書名 『知っておきたいNPOのこと【参加編】 7つの変化の実践事例』（日本NPOセンター編, 「持続性と多様性に価値を置き、自主性と自律性をベースにした参加のしくみ よこはま里山研究所の場合」を分担執筆）	

1. 著者名 福永真弓	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 258 (217-228)
3. 書名 『想起の調査から想起の理論へ 記憶のフィールドワークから得たもの』(鳥越皓之・金子勇編著, 「現場から創る社会学理論」を分担執筆)	

1. 著者名 菅豊	4. 発行年 2016年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 404 (74-81)
3. 書名 『環境に挑む歴史学』(水島司編, 「歴史のなかの環境とcommons 日本の子の資源利用」を分担執筆)	

1. 著者名 安田章人	4. 発行年 2016年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 312 (13-38)
3. 書名 『アフリカ潜在力 5 自然は誰のものか: 住民参加型保全の逆説を乗り越える』(山越言・目黒紀夫・佐藤哲編, 「殺さない倫理と殺して守る論理 アフリカのスポーツハンティングを考える」を分担執筆)	

1. 著者名 宮内泰介	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 206
3. 書名 歩く、見る、聞く 人びとの自然再生	

1. 著者名 宮内泰介	4. 発行年 2017年
2. 出版社 新泉社	5. 総ページ数 360
3. 書名 どうすれば環境保全はうまくいくのか 現場から考える「順応的ガバナンス」の進め方	

1. 著者名 関礼子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 258 (49-58)
3. 書名 『現場から創る社会学理論－思考と方法』（鳥越皓之・金子勇編, 「被害の社会的認知論－自然の共同性と公害被害の全体性」を分担執筆）	

1. 著者名 菊地直樹	4. 発行年 2017年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 310
3. 書名 「ほっとけない」からの自然再生学 コウノトリ野生復帰の現場	

1. 著者名 笹岡正俊	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 368 (195-214)
3. 書名 『シリーズ東南アジア地域研究 第1巻 環境』（井上真編, 「『隠れた物語』を掘り起こすポリティカルエコロジーの視角」を分担執筆）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

不確実性と多面的価値の中での順応的な環境ガバナンスのあり方についての社会学的研究
<https://junno.jimdo.com/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	関 礼子 (Seki Reiko) (80301018)	立教大学・社会学部・教授 (32686)	
研究分担者	三上 直之 (Mikami Naoyuki) (00422014)	北海道大学・高等教育推進機構・准教授 (10101)	
研究分担者	丸山 康司 (Maruyama Yasushi) (20316334)	名古屋大学・環境学研究科・教授 (13901)	
研究分担者	菊地 直樹 (Kikuchi Naoki) (60326296)	金沢大学・地域政策研究センター・准教授 (13301)	
研究分担者	笹岡 正俊 (Sasaoka Masatoshi) (80470110)	北海道大学・文学研究院・准教授 (10101)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山本 信次 (Yamamoto Shinji) (80292176)	岩手大学・農学部・教授 (11201)	
研究分担者	鬼頭 秀一 (Kitoh Shuichi) (40169892)	星槎大学・共生科学部・教授 (30124)	
研究分担者	佐藤 哲 (Sato Tetsu) (10422560)	愛媛大学・社会共創学部・教授 (16301)	
研究分担者	安田 章人 (Yasuda Akito) (40570370)	九州大学・基幹教育院・准教授 (17102)	
研究分担者	菅 豊 (Suga Yutaka) (90235846)	東京大学・大学院情報学環・学際情報学府・教授 (12601)	
研究分担者	西城戸 誠 (Nishikido Makoto) (00333584)	法政大学・人間環境学部・教授 (32675)	
研究分担者	浜本 篤史 (Hamamoto Atsushi) (80457928)	名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・准教授 (23903)	
研究分担者	福永 真弓 (Fukunaga Mayumi) (70509207)	東京大学・大学院新領域創成科学研究科・准教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩井 雪乃 (Iwai Yukino) (80507096)	早稲田大学・平山郁夫記念ボランティアセンター・准教授 (32689)	
研究分担者	富田 涼都 (Tomita Ryoto) (20568274)	静岡大学・農学部・准教授 (13801)	
研究分担者	松村 正治 (Matsumura Masaharu) (90409813)	恵泉女学園大学・人間社会学部・准教授 (32694)	
研究分担者	田代 優秋 (Tashi ro Yushu) (90467829)	和歌山大学・COC+推進室・特任助教 (14701)	
研究分担者	鈴木 克哉 (Suzuki Katsuya) (80447896)	北海道大学・文学研究科・共同研究員 (10101)	